



学校名：千葉県立成田国際高等学校

氏名： 富田 明澄

[担当教科：理科(生物)]

- 実践教科等：国際理解教育
- 時間数：4時間
- 対象生徒：高校1年生(国際科)
- 対象人数：41人×3クラス

1 単元名

「国際協力」について考えてみよう！

2 単元の目標

- ・他者との話し合いを円滑に行い、多様な考えや価値観を認め合い、多面的に物事を考えられる力を養う。(多面的・総合的に考える力、コミュニケーションを行う力)
- ・様々な形態の国際協力が補完しながら援助を行う重要性を学び、継続的な国際協力の在り方を考える。(未来像を予測して計画を立てる力)
- ・国際協力を行う意義や必要性について学び考え、国際化社会の中で互いに助け合い共生する心を養う。(他者と協力する態度、つながりを尊重する態度)

3 ESD(持続可能な社会づくり)の視点

多様性	相互性	有限性	公平性	連携性	責任性
-----	-----	-----	-----	-----	-----

- ・ザンビアと日本の文化や価値観の違いを知り、尊重し合う大切さを学ぶ。【多様性】
- ・ザンビアと日本の様々な繋がりを知り、グローバル社会全体における相互性に気付く。【相互性】
- ・国際協力における相互扶助の関係性に気付く。【連携性】
- ・ザンビアの問題を解決するために、日本や自分が出来ることを主体的に考える。【責任性】

4 単元の指導について

(1)教材観

今年度からSGH(スーパーグローバルハイスクール)に指定された本校では、「グローバル人材の育成」を学校目標の一つに掲げている。それを達成するにあたり、先進国で生きる我が国の生徒には「豊かさ」に溺れて大切なものを見失って欲しくないという願いがあり、「あなたの大切なものは何ですか？」という教材作成に至った。将来、グローバル人材として生きていく生徒達に「豊かになることが一概に良いこととは限らない」という視点を持たせ、多面的に物事を考えられる能力を養うきっかけにしたい。

また、国際協力について上辺の知識に留まりがちな生徒たちに、少し難しくはあるが具体的な援助方法や「PDCA サイクル」に着目しながら具体的に支援計画を考える活動を取り入れることで、国際的思考の強い生徒たちのポテンシャルを引き出したいと考えた。

(2)生徒観

本校は「成田“国際”高校」という名の下、外国語教育や国際理解教育に力を入れており、国際的思考を持つ生徒が多く在籍している。また、毎年多くの国際交流の場が設けられており、成田市内でのボランティアや修学旅行、短期留学等においても海外の歴史や文化に触れる機会が多い。卒業後の進路においても国際社会を学ぶ大学や就職を希望する生徒が多い。しかし、現段階では興味の域を越えず、知識は表面上に留まっている生徒が多いことは否めない。また、素直で明るく元気な生徒が多いが、自主的に考えて行動することを苦手とする生徒が多い。一方、SGHのフィールドワークの一環として、クラスで5名程度が平成27年11月にJICA地球ひろばを訪れて講義を受けているものもある。

(3)指導観

グローバル人材の育成の実現のために養いたいと考える資質は、①多面的に物事を捉え、考えることができる。②多様な価値観や考えを認め、尊重し合える心を持っている。③互いに助け合いながら共

生する態度を育成する。の3つである。これらを育むための指導は、本校だけでなく今後の日本を担う全国の生徒たちにとって非常に重要であると考え、各単元にこれらを実現できるテーマを組み込んだ。

また、表面上の知識に留まっている生徒の現状を踏まえると、より具体的で実用的な「国際協力」や「異文化」を学べるような教材開発をする必要があると考えた。

5 評価基準

観点	国際理解や国際教育への関心・意欲・態度	主体的に考え、発信する意欲・態度	効果的にコミュニケーションを行う能力	資料・情報活用の技能
評価規準	・個人や国ごとに異なる価値観を押しつけることなく、多様な価値観や生き方を受け止め、理解して尊重する姿勢を持つことができる。	・自分の意見を自分の言葉で表現することが出来る。 ・国際協力の計画を、主体的かつ多面的に考えながら立てようとしている。	・自分とは異なる他者の意見を理解する姿勢を持ち、建設的に話し合いを行うことができる。 ・自身の意見をわかりやすい言葉で相手に伝えることができる。	・ザンビアの写真に関する資料や説明の中から有用な情報を適切に抜き取り、それを咀嚼しながら活用している。
評価方法	ワークシート 話し合いの様子 発言内容	ワークシート 話し合いの様子 発表の様子	ワークシート 話し合いの様子 発言内容	ワークシート 話し合いの様子 発言内容

6 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1	What is Zambia like?	・サンビアについて知る。 ・日本との繋がりを知る。 ・日本と異なる価値観や文化を知る。	・スライドショーや現地で撮影した写真を用いて、クイズ形式で行う。 ・現地で購入したキャンディーを食べて、日本との食文化の違いも体験する。
2	あなたの大切なものはなんですか？	・自分の価値観とは異なる多様な価値観を知る。 ・他者と価値観を一致させることは非常に難しく、共生するために互いの価値観を受け入れて認め合う姿勢が大切であることを学ぶ。 ・「豊かさ」に溺れて本当に大切なものを見失わないような生き方について考える。	・「Friends」「Family」「Study」「Money」「Freedom」「Fame」「Love」「Dream」の8項目を大切だと思う順にランキングし、理由を併せてワークシートに記入する。 ・グループ内でランキングを決める。但し、多数決ではなく必ず話し合いで決める。 ・ザンビアの生徒に行った、同じ質問に対する答えを提示し、実際に記入してもらったアンケート用紙を各グループに配布し、現地の生徒の価値観を知る。
3	国際協力について考えてみよう！	・【フォトランゲージ】 ザンビアの写真を見て、現地の人々の生活を想像し、ストーリーを作る。 ・日本が行っている支援の種類やその特徴を学ぶ。	・ザンビアで撮影した「教育」「医療」「水」に関する写真を3枚ずつグループに配る。2グループずつ同じテーマの写真でフォトランゲージを行う。 ・自身の持っていた“偏見や差別、固定観念”について知る。 ・国が行う支援について学び、ODAの3種の協力（無償資金協力・有償資金協力・技術協力）の特長を考える。
4		・日本が支援がもたらす、ザンビアの理想の姿を各グループで【ゴール】を設定する。 ・【ゴール】を達成するために、数種ある支援の特長を踏まえて、どのような支援を用いて、どのような計画で行うと良いか考える。	・ザンビアの実情を資料から読み取り、どのような支援が必要かを考える。 ・PDCA サイクルについて学び、継続的に支援するにはどのような手段をとれば良いか考える。

7 授業事例の紹介

小単元名【国際協力について考えよう！】

(1) 指導案

(ア)実施日時 12月21日(月)第2限

(イ)実施会場 1年G組教室

(ウ)本時の目標

- ・国際協力の種類や方法、その特徴を学ぶ。
- ・現地の写真から、生活の様子を学ぶ。また、フォトランゲージにより自身が持つ偏見や差別を認識する。
- ・PDCAサイクルを学び、持続的な国際協力の方法を自主的に考え、計画する。
- ・国際協力の必要性や意義を学ぶ。

(エ)指導のポイント

- ・フォトランゲージや国際協力の計画など、友人や他のグループが考えたものを見たり聞いたりする機会を設けることで、多様な価値観や考えを受け入れて尊重する姿勢を養う。
- ・可能な限り生徒の活動する時間を増やし、「学び合い」を意識した展開を実施する。

(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
導入 5分	【発問】 「日本にとって、途上国に対する国際協力は必要だと思いますか？」	国際協力について考えてみよう！①			ワークシート 活動の様子
展開1 15分	【フォトランゲージ①】 各グループに3枚ずつ写真を配る。	・写真を見て、気付いた事や気になる事など、付箋に書き込む。 ・他のグループの写真と付箋の内容を見て回る。	グループ 自由	日本の現状と相手国の現状を踏まえ、素直な気持ちを書くように指示。 各クラス6グループで活動。2グループずつ同じテーマの写真を渡す。(テーマは、「水」「教育」「医療」) 他のグループに配られたザンビアの写真を見て、現地の様子を学ぶ。他者の考え方や視点を知る。	活動の様子 回収した付箋
展開2 30分	【フォトランゲージ②】 3枚の写真全てを繋げてストーリーを作る。	・グループで一つのストーリーを作り、ワークシートに記入する。 ・発表して共有する。 ・写真やワークシート等は終了時に回収して、生徒の活動の様子を確認する。	グループ	必要な情報は、ザンビアの状況を想像して自由に補うよう指示をする。	ワークシート 活動の様子 発表の様子 ワークシート
導入 5分		国際協力について考えてみよう！②			
		回収したワークシートと写真を返却する。		写真の裏にザンビアに関するデータや写真の解説を添付。	

展開 40分	ザンビアの現状を知る。 支援の計画を立てる。	写真の裏にある説明や、ザンビアに関するデータを読み取り、ザンビアの現状を知る。 問題点に着目し、支援を行う「目標」を設定する。 支援の「持続性」の大切さに関連付けて、PDCAサイクルについて学ぶ。 各グループで「PDCAサイクル」に則って支援計画を立てる。 グループ毎に発表し、クラスで共有をする。	グループ	班で話し合いながらザンビアの現状・問題点を炙り出すよう指示。 明確で具体性のある目標設定にするよう指示。 前時で習ったODAの支援のうち、どの方法を使うか等、詳しく計画を立てるよう指示する。	ワークシート ワークシート活動の様子 発表の様子
まとめ	まとめ	前時の発問「日本にとって、途上国に対する国際協力は必要だと思いますか？」に関して。 国際協力を行う意義や国際協力の在り方・必要性について。 生徒に期待することや、研修に参加しての感想等。		キーワード 「恩返し」、「途上国への支援は日本への支援」、「グローバル＝他国の問題が自国の問題でもある」、「持続性」、「価値観の押しつけはNG」	ワークシート（感想等）

(2) 授業の振り返り

現実的な計画を立てられたグループは少なかったが、時間が少ない中、具体性を持った計画が考えられており、既習事項のODAの支援の種類についてもグループで復習・確認しながらしっかりと計画に盛り込めていた。複数の援助がそれぞれの強みと弱みを補完しながら援助する仕組みを理解して組み込めていたグループも多くあった。また、今まで「国際協力の持続性」という概念に気が付かなかったと多くの生徒が感想を述べていたが、PDCAサイクルを用いることで、改めて持続性を意識して国際協力を考えられるきっかけになった。難易度が高いと懸念した部分もあったが、国際科の生徒にとっては十分に咀嚼できる内容であり、展開方法を工夫すればより高度な内容も吸収できると感じた。

問題点としては、「目標」設定が具体性に欠けていて計画がうまく立てられていないグループも見受けられたので、目標設定の方法やヒントを再検討する必要があると感じた。

(3) 使用教材



スライド

プリント

(4) 参考資料等

・「国際理解教育実践資料集 ～世界を知ろう！考えよう！～」 JICA地球ひろば

8 単元をととした生徒の反応/変化

興味関心: A・B・C 意欲態度: A・B・C 学び: A・B・C

今更 支援というてやれやれという印象でした。話を聞いて 相手の立場にたて考えよう、が重要な点で感じました。作るときには、実際使えていようように説明したり 自立を促すのも支援なのかなと思いました。自己満足な支援にならないよう支援の形を考えた貧困や病気とそれに対する意識を減らしてあげたいと思います。

今回の授業で、具体的な国際協力を学んだことで、「自分のやりたいことが具体的に見えた」と述べる生徒や、「グローバル化の本当の意味にも触れられた」と述べる生徒が複数おり、主体的に行動していく大切さや、相手を尊重して共存していく大切さを学ぶ良いきっかけになったのではないかと感じた。また、ほぼ全員が「興味関心・意欲態度・学び」の評価を「A」とし、今まで上辺の知識に過ぎなかった国際協力や国際理解について具体的に学べたとし、この授業が生徒たちの“何か”を動かす、又は変えるきっかけになれば良いなと思う。

9 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

【海外派遣前】

- ・研修に参加した理由の一つとして、「世界の多様な価値観を知る」や「便利さゆえに忘れがちな、自身の大切なものに気付く」といったテーマを核にして授業を行いたいという目標があったので、この内容に関連付けて授業を展開しようと考えていた。
- ・国際協力の在り方や必要性、種類等については事前研修で学び、頂いた資料やJICAのホームページ等を参考に調べて海外研修に備えた。(良かった点)
- ・授業展開については、核にしたい授業以外、詳細を考えられず帰国後に計画しようと後回しにしてしまった。(反省点)

【海外派遣中】

- ・実際に現場の人の声を聞けたことで、調べた知識が実感に変わり、身になった。(良かった点)
- ・核になる授業の展開で必要なものや、使いたいものを事前に決めて準備していったので、より有益な情報収集が出来、帰国後の授業準備も非常にスムーズに行えた。(計画通りだった点)
- ・核になる授業以外は、どのような展開で行うか決められていなかったため、受け身な情報収集しかできなかった。(反省点)

【海外派遣後】

- ・海外派遣前後で本当に多くの事を感じ学んだが、たった数時間で全てを生徒に還元することは逆効果になると感じた。そのための取捨選択は非常に難しかった。(苦労した点)
- ・核になる授業に関連付けてスムーズな展開を再検討すると、より良い教材が出来ると感じた。

P(計画)

- ・国際協力を行う意義や必要性、自分に出来る国際協力について考えるきっかけを与える。
- ・国際協力を行う上で大切な観点について学ぶ。
- ・相手の生き方や価値観を受け入れ、尊重して生きる姿勢の大切さに気付かせる。
- ・国際協力の種類やその特徴について学ぶ。
- ・グループ活動やクラス全体での発表時間を多くとることで、自主的に考える姿勢や、円滑なコミュニケーションを行う能力を養い、多様な価値観を知るきっかけを与える。

D(実施)

- ・ザンビアをより身近に感じてもらえるよう、授業で行う予定のものと同様のアンケートを実施し、現地の生徒に直筆で答えてもらい、教材にした。

- ・自分が現地で感じた事や見たものをそのままの言葉で伝えた。
- ・グループ活動を多く取り入れた。

C(検証)

- ・毎時、感想等を記入したワークシートを回収して生徒の学習状況を確認した。(学習成果)
- ・多くの生徒が「持続性」や「価値観の押しつけ」にならないという観点を意識しながら、それぞれの支援の特徴を踏まえ補完し合った国際協力について計画をたてることができた。
- ・生徒が毎時間興味深そうに話を聞いている姿や、廊下ですれ違った時にザンビアについて様々な質問をしてくれたので、何か考えるきっかけを与えられたのではないかと感じる。
- ・授業時間が圧倒的に少なすぎた。そのため、1時間で多くの事を盛り込みすぎてしまったので消化不良を起こしている生徒がいるかもしれない。
- ・授業を行うコマの確保がとても難しかった。

A(改善)

- ・自身が担当する教科内での国際理解教育教材の開発と実施を来年度から行いたい。
- ・一年を通して、少しずつ国際協力や国際理解の授業を組み込んで学んでもらいたい。

10 教師海外研修に参加して

“教師”海外研修という名の研修は、教師としてはもちろんのこと、一人の人間として学ぶこと、考えさせられること、感じる事が非常に多く、頭・心・身体、本当にあらゆる自分がめまぐるしく動かされた10日間でした。

後開発途上国のザンビアには、先進国の日本のような“豊かさ”はありません。しかしそこには、日本が失いかけている、又は失ってしまった“豊かさ”が確かに存在しているように、私の目に映りました。「必要の一步先の便利」を追いつめること。それは、私たちの生活に新たな豊かさをもたらすかもしれませんが、しかしその豊かさが本当の意味の幸せをもたらすのか。中学生の頃から考え続けてきましたが、研修を終えた今でもその答えはわかりません。

「皆さんにとって最も大切な“豊かさ”はなんですか？」私が世界中の人々に最も聞いてみたいことです。もし私の財布の中が豊かではなくなったとしても、共に笑いあえる仲間や可愛い大切な生徒たち、そして彼らの幸せを願うことができる心の豊かさは守り続けていきたいです。そして、周りにいるたくさんの人たちを豊かな気持ちにさせられる、そんな人でありたいと改めて感じさせられた研修でした。

ザンビアで沢山の学校に行かせていただいたことで、多くの子供たちのキラキラと輝く瞳に出会うことができました。その輝きは、日本の子供たちと同じ輝きでした。この輝きに、より磨きをかけられるような社会をつくっていくことが私たち大人の使命なのだと感じました。授業実践の際、生徒たちの瞳は本当にキラキラしていて、真っ直ぐにこちらを見て真剣に頷きながら話を聞いてくれました。その姿は今でも私の目に焼き付いています。自分で経験して感じて学んだ体験だからこそ、生徒に伝えられる、そして伝わる事があるのだなと身をもって学び、一生の財産になる経験をさせてもらえたと改めて思いました。今後も、教材開発を行い続け、毎年必ず授業実践を行っていきたいと思っています。

最後に、この研修は、本当にたくさんの方々の支えや助けがあって行われていることを終始感じていました。それ故、国際協力然り、人同士の繋がり、支え合いの中で自分が生きていることを改めて感じる研修でした。ありきたりな言葉でしか表すことができずにもどかしい限りですが、この研修に参加させていただけた事に、心の底から感謝の気持ちで溢れています。今後の教員人生、そして一人の人間としての人生の中で、この研修で学んだ事を様々な場面・形で還元していきます。

今ある豊かさにおごることなく、臆することなく、謙虚に、貪欲に生きていく力を養っていける、そんな教員を目指します。